

SDGsジャパン:SDGsに取り組むNGO/NPO・ 市民社会セクターのプラットフォーム

SDGs(17目標, 169ターゲット, 230指標)

貧困の解消

持続可能な経済

環境

平和・ガバナンス

パートナーシップ

提言
行動

普及
啓発

連携
協力

調査
研究

提案
助言

ガバ
ナ
ンス

会員総会

理事会

市民活動団体会員

連携・協会員

一般正会員

企業会員

ネットワーク正会員

団体会員

情報会員

事務局

事業ユニット制度

事業
実施

開発・国際協
力

保健
教育
開発資金

環境

気候変動、
生物多様性

貧困・格差是正

地域

社会的責任、その他

一般社団法人 SDGS市民社会ネットワーク

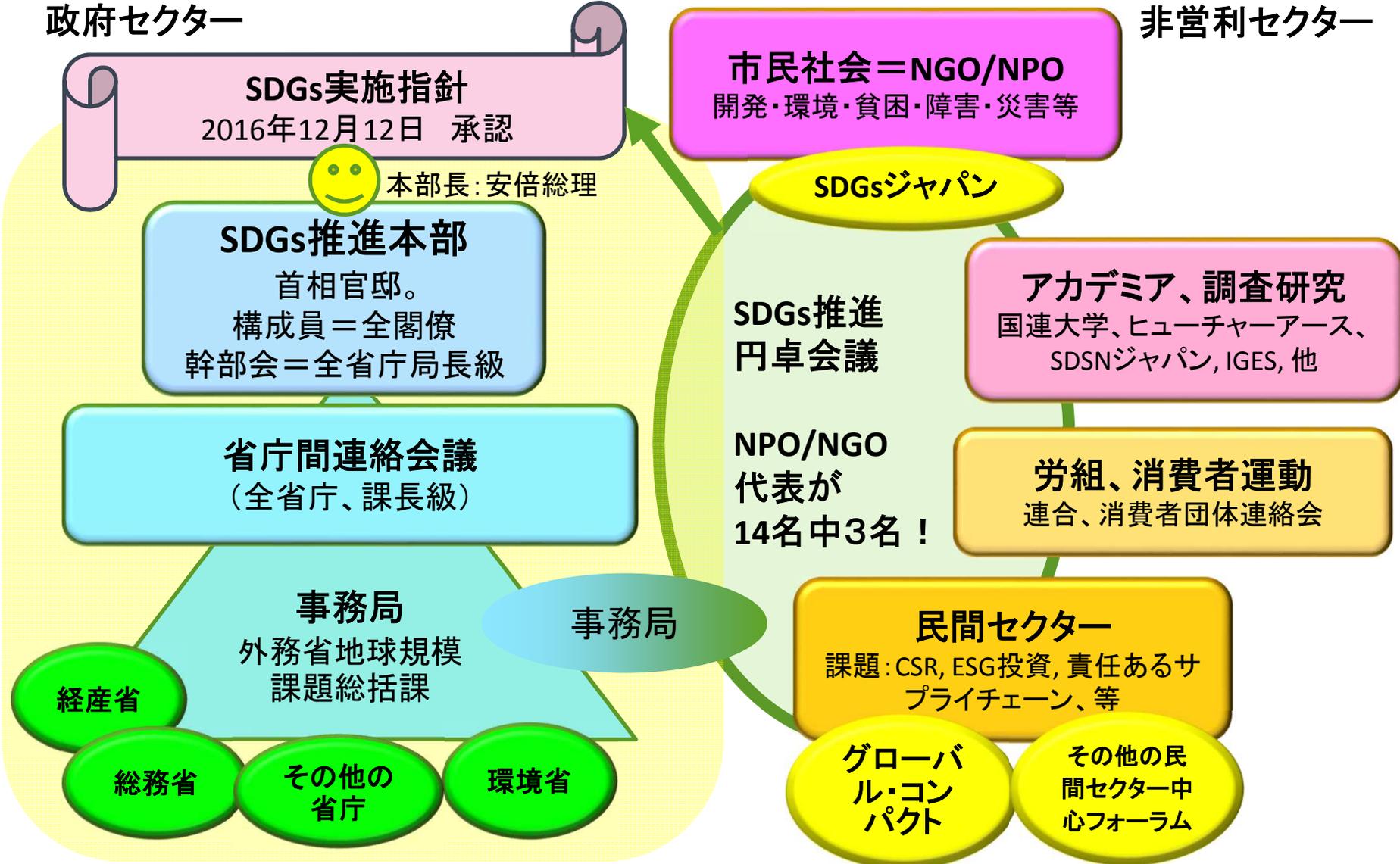
チェンジメーカーとしての 市民社会の役割を果たす

- ◆ 市民社会（NGO/NPO）＝チェンジメーカー（変革主体）：チェンジメーカーとしての役割を果たすことが最大の使命
 - 「変革」とは何か？＝すでに方向性が決まったものを追認するのは「変革」とは言わない
 - ✓ 方向性が定まっていないものについて、市民社会の立場から明確な方向性を提示する。
 - ✓ 「取り残された問題」「注目されていない問題」について注意を喚起し、市民社会の立場からの正しい方向性を提示する。（もちろん、回答は一つではない）
 - SDGsジャパン（およびその前身である「動く→動かす」、「ポスト2015市民社会プラットフォーム」は、2012年からSDGsへの取り組みを行ってきた

二つの事例(1)SDGsに関する 政府の体制の確立への働きかけ

政府セクター

非営利セクター



二つの事例(1)SDGsに関する 政府の体制の確立への働きかけ

- ◆ 2012年からSDGs策定に向けた働きかけに取り組んできた市民社会(ポスト2015市民社会プラットフォーム)
 - SDGs首席交渉官を中心に3年間で20回以上の意見交換会
 - 国連SDGs特別顧問(アミーナ・モハメッド)とも2回の意見交換会
- ◆ SDGsができてから:国内体制の整備に尽力
 - 総理を本部長とする「SDGs推進本部」:G7伊勢志摩サミットとの関連で積極的に追求、各政党にも働きかけ、トップのコミットメントを実現
 - 「円卓会議」:すべてのセクターの対等な責任ある参画を保証する体制を追求
- ◆ SDGs実施指針に向けて
 - 決して理想的な指針とは言えない:特に優先課題や予算について
 - しかし、現行で可能な最大限の内容を含んでいる⇒2019年の見直しに向け実効力を拡大する積極的な取り組みが必要

二つの事例(1)SDGsに関する 政府の体制の確立への働きかけ

★「日本を次の世代に残す」これが「当たり前」でなくなっている現代

- SDGsを国家の基本政策とすること
- 「基本法」の制定
- 真の「司令塔」と 全省庁・社会セクターの連携
- 「地球の限界」= 飢餓をなくすには、増産ではなく、格差・分配の在り方の是正が必要
- 「科学技術」と「社会・経済の仕組みのイノベーション」の相乗効果で実現

★現代を生きる若者にとって、SDGsの達成の如何は死活問題。

- メドウズの未来予測では、「破局」は2030年に：現代の若者にとってSDGsの達成の如何は死活問題。
- バラバラな既存の施策を打ち破り、政策同士の連携を作るために、SDGsは最大のツールとなる。
- 社会・経済の変革の視点を持つ市民社会がSDGs推進の最大の力になる。

日本の持続可能性の4大課題



答えは、社会・経済の
仕組みのイノベーションに

★「科学技術」だけでなく、社会・経済の仕組みのイノベーションが必要

★すべてのセクターの参加で進める。
中でも、市民社会は最大の力になる

二つの事例(2)ハイレベル政治 フォーラム(HLPF)に向けた取り組み

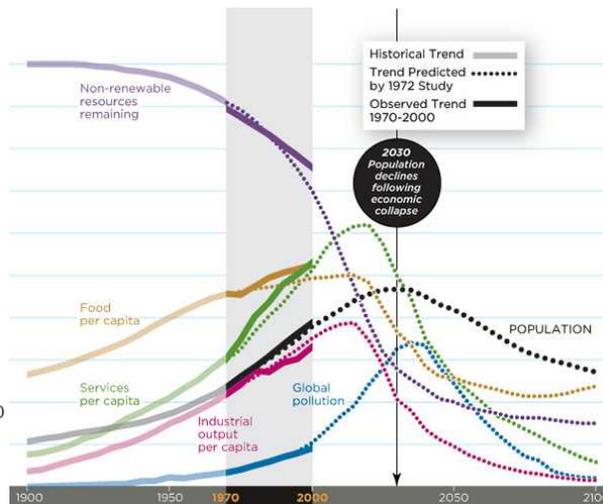
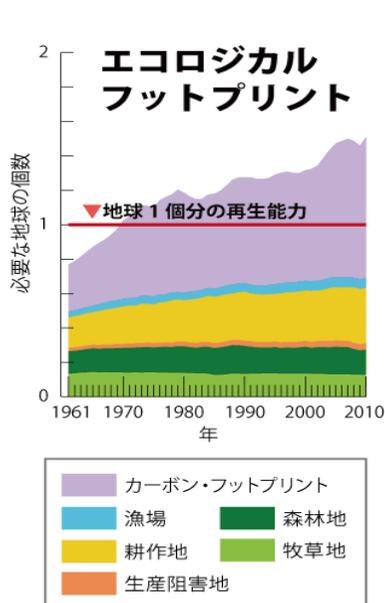
1. より幅広い「市民社会セクター」全体の連携強化:労働組合(連合)、協同組合(ワーカーズコープ、日本生協連、農協関連の諸団体等)との連携
2. 政府の「自発的国別レビュー」(VNR)に対して、市民社会として、日本のSDGsの状況を評価する独立評価報告書を発表(他の諸国の市民社会も行っている:ブラジル、ケニア、etc.)
3. 二つのサイドイベントの実施
 - (1)日韓のSDGs進捗の評価
 - (2)アフリカのSDGs達成に向けた東アジアの役割

世界的な市民社会の「弱体化」の中で、グローバルな市民社会の中でも日本の市民社会の独自の存在感とリーダーシップを確立しつつある

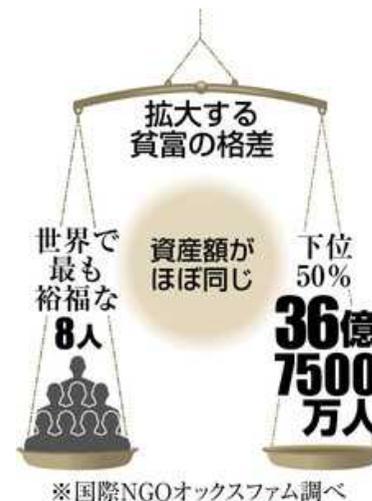


SDGsにかかわるパートナーシップに 求められることは何か

求められているもの：貧困のない、持続可能な地球（環境、経済、社会）を
次の世代に引き継いでいくためのダイナミックなパートナーシップ



持続不能な世界の現実



貧富格差と世界の不安定化



◆ 貧困のない、持続可能な世界をどう作るか、という観点からのダイナミックな パートナーシップが必要

- SDGsが知られていない頃は「SDGsをもっと知ってください」でよかった
- 今は「次の段階」:「持続可能な世界」に資するのかを吟味するパートナーシップが必要

「ゴール16」(平和、人権、ガバナンス) を含めた新たな原則の必要性



ゴール16の重要性:例えば...

- あらゆる形態の暴力を終わらせる (16.1)
- 国内外で法の支配を実現する(16.2)
- 効率的で責任を果たし、透明な行政機関を形成する(16.6)
- 責任ある、包摂的で参加型の代表権ある意思決定プロセスを確立する (16.7)

今こそ必要な「SDGs360度レビュー」

ある実践がゴールXには貢献するが、ゴールYには悪影響を及ぼすとしたら？



＜SDGs360度評価 4つの基本原則＞

- そのXXは、貧困・格差や失業を拡大しないか？(または、拡大を防ぐ有効な措置を伴っているか？)
- そのXXは、再生不能資源やエネルギーの消費を拡大しないか？(または、拡大を防ぐ有効な措置を伴っているか？)
- そのXXは、特定のジェンダー、地域、コミュニティ等の人びとへの暴力、差別・抑圧を拡大しないか？
- そのXXは、責任ある透明な形で情報を公開し、民主的なコントロールの下に置かれているか？

「それはSDGsではない」と指摘することこそ、ダイナミックなパートナーシップ